

年 表

～若戸大橋のあゆみ～



構想から着工まで

昭和 2 年 (1927 年)	洞海湾トンネル構想が浮上 若戸隧道「若松政界太平記」(出版フロムワン) 林国雄氏 (大正 15 年) 若松商工会→会議所 (昭和 2 年提案) 高野貞三著 (参考)
昭和 5 年 (1930 年) 4 月 2 日	若戸渡船転覆事故で 73 名の水死者
昭和 10 年 (1935 年)	洞海湾トンネル構想が浮上
昭和 11 年 (1936 年) 12 月 23 日	県議会が洞海湾トンネル計画を議決
昭和 13 年 (1938 年) 12 月 13 日	内務省が洞海湾トンネル計画を施行認可 (日中戦争で中断)
昭和 18 年 (1943 年)	内務省が再計画 (太平洋戦争で頓挫)
昭和 27 年 (1952 年) 6 月 6 日	道路整備特別措置法 (有料道路制度) が確立 (交付) 福岡県が現地調査を実施、橋梁案を計画
昭和 28 年 (1953 年) 5 月 18 日	2 級国道 199 号門司・八幡線の指定
昭和 28 年 (1953 年) 7 月 21 日	若松架橋促進市民大会開催
昭和 30 年 (1955 年) 10 月 16 日	建設省若戸橋出張所を旧若松市に設立
昭和 30 年 (1955 年) 11 月	本格調査を開始
昭和 31 年 (1956 年) 4 月 16 日	日本道路公社設立
昭和 31 年 (1956 年) 8 月 1 日	調査を建設省から日本道路公団が引き継ぐ
昭和 33 年 (1958 年) 4 月	工事説明会実施
昭和 33 年 (1958 年) 5 月 1 日	若戸大橋工事事務所設立
昭和 33 年 (1958 年) 8 月 26 日	若戸大橋の事業許可 (事業費 51 億円)、事業着手 (用地買収、工事発注)

着工から開通まで

昭和 34 年 (1959 年) 3 月 30 日	旧若松市役所前広場で起工式
昭和 37 年 (1962 年) 9 月 26 日	若戸大橋が完成 (交通量 6,700 台/日)
昭和 37 年 (1962 年) 9 月 27 日	供用開始
昭和 37 年 (1962 年) 9 月 28 日	開通記念「産業・観光と宇宙大博覧会」開催 (～11 月 25 日)

開通から現在

昭和 47 年 (1972 年) 2 月 1 日	人道料金無料化
昭和 54 年 (1979 年) 8 月	福岡県幹線道路協議会にて 4 車線化を提案
昭和 57 年 (1982 年) 12 月 21 日	4 車線拡幅の都市計画決定
昭和 59 年 (1984 年) 4 月 24 日	若戸大橋事業変更許可 (事業費 230 億円)

昭和 62 年（1987 年）3 月 30 日	拡幅の本線工事着手
昭和 62 年（1987 年）5 月 31 日	歩道廃止
平成 2 年（1990 年）2 月 23 日	若戸大橋事業変更許可(事業費 174 億)
平成 2 年（1990 年）3 月 31 日	若戸大橋 4 車線供用開始、北九州都市高速道路と接続
平成 17 年（2005 年）9 月 30 日	北九州市が若戸大橋を引き継ぐ
平成 17 年（2005 年）11 月 1 日	北九州市道路公社設立
平成 18 年（2006 年）4 月 1 日	北九州市道路公社が若戸大橋を引き継ぐ
平成 18 年（2006 年）8 月 1 日	通行料金値下げ
平成 20 年（2008 年）	都市高速道路との接続（戸畑合併料金所）に ETC による徴収開始
平成 23 年(2011 年)	大規模補修工事開始
平成 24 年（2012 年）9 月 15 日	若戸トンネル供用開始
平成 24 年（2012 年）9 月 27 日	若戸大橋開通 50 周年
平成 30 年（2018 年）12 月 1 日	若戸大橋及び若戸トンネル無料化
令和 4 年（2022 年）2 月 9 日	若戸大橋が国の重要文化財（建造物）に指定される